

平成26年度新しい公共の場づくりのためのモデル事業

いわて文化支援ネットワーク通信  
アシスト・なう

11号

発行日  
平成27年2月1日

発行: 特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター / 印刷: 杜陵高速印刷株式会社

いわて文化支援フォーラム

開催日: 平成27年1月17日(土) 13:00~16:00 会場: もりおか町家物語館、浜藤ホール

- 第1部 映画「物置のピアノ」上映会 (2014年/日本/115分)
- 第2部 対談「震災後の文化活動について~音楽のたねをまこう~」  
似内千晶さん(映画監督) × 寺崎 巖さん(いわてフィルハーモニーオーケストラ代表)  
聞き手 飯田裕美子さん(共同通信社)

阪神大震災から20年目を迎える盛岡は朝から雪の舞う一日となりました。会場となったもりおか町家物語館の浜藤ホールには、約80人の来場者が参加し映画「物置のピアノ」を鑑賞しました。

この映画は東日本大震災後の福島県桑折町を舞台に、原発事故や風評被害に揺れ動く、家族姉妹の心の葛藤と17歳の少女の心の成長を描いた作品です。映画の中に流れるピアノ曲と福島らしい自然が印象的な映画でした。第二部では、本作品が初監督となった似内千晶さんと、いわてフィルハーモニー代表の寺崎巖さんが、映画、音楽、被災地の文化活動の現状と今後等について対談しました。



大震災の関わりの中で、若者たちが今どう生きていくかがよく描かれていて感銘を受けました。私は福島市で高校・大学の学生として生活しましたので、ふるさとへの思いもかきたてられました。福島の風評被害にも心が痛みます。大変良い映画だと思いました。(70代男性)

物言う人の本心、物言わぬ人の想い(大人も子ども)ということを考えさせてくれました。「人生を少しでも生き生きと生きていくための、スパイス」という言葉、まさにそれが芸術だと思いました。

単なる映画というのではなく、今回は監督さんの思いを実際に聞くことができたことがとても良かったです。カノンは私も好きな曲です。復興の応援に被災者の心の支えになったと聞き、音楽が人を助けることを実感しました。

映画だけでなく制作者の似内さん、音楽家の寺崎先生の対談もうかがえて本当に来てよかったです。声高に原発発をうたった映画ではないのに、福島に生きる人々の苦難が伝わりました。製作の背景もお聞きし、さらに映画への思いが深くなりました。映画にいつも力づけられている私です。(60代女性)



楽器アシストプラン・  
コーディネート報告  
担当：寺崎 巖

コーディネーターとしていたグランドピアノが納入になり、寄贈主催者のサントリホール支配人尾崎勝吉氏が釜石を訪問し贈呈式を行いました。  
9月12日盛岡駅着高速で釜石へ。午後仮設住宅で贈呈式。山陰ピアノ教室主宰、山陰義史様宅に届いたピアノの前で懇談しました。

尚、日本弦楽指導者協会理事長、立木茂様より寄贈のアップライトピアノは、小成楽器に納入調整後、宮古市民文化会館の録音室に設置されました。(輸送費はウイーン・フィル&サントリの支払)



11月24日(月・祝)、宮古市の劇研麦の会の七十三回目の定期公演がそけい幼稚園の講堂にて行われた。この日、私は舞台照明のお手伝いに前日から麦の会の皆さんと行動を共にしていた。会場となるそけい幼稚園の講堂で「前明り」といって、役者の顔を明るく照らす灯体の用意と操作の依頼があったのだ。演目は「姉(あんね)が泣いた」である。奇しくも3年前のあの時と同じ演目だった。

岩手県大槌町立大槌小学校金管バンドアシスト事業

大槌小学校は被災により廃校となった4校を統合し平成25年度新設となりました。新設新年度から始まった金管バンドの支援要請に応える指導者を派遣しています。大槌小学校は被災世帯が多く、仮設住宅からの登校を余儀なくされています。仮設住宅や仮設校舎での制限された生活により、子どもらしい活発な活動を抑制され、常に平静を維持しなければならない状況下に長時間置かれているのが実態です。そのため表現活動やコミュニケーション活動に於いて影響が深刻化している現状にあり、芸術活動を通して表現の健全化を図ることを急務とされています。短時間の練習に制約されている中、各専門家の技術指導を受け、楽器の演奏能力が飛躍的に向上しています。延べ20回に及ぶレッスンによって、個別対応が可能となり、生徒一人一人が問題を解決できてきました。10月の学習発表会ではアシストなしで楽曲を演奏でき、自信をつけました。

- 5月24日(土) 9:30~11:00 寺崎 巖 指揮 合奏/熊谷綾子Perc
- 6月9日(月) 14:50~16:15 白旗 弘 Trb/谷藤綾香 Tuba/佐々木治子 Tp
- 6月13日(金) 14:50~16:15 熊谷綾子 Perc/谷藤綾香 Tuba
- 6月14日(土) 9:30~11:00 寺崎 巖 指揮 合奏
- 6月28日(土) 14:50~16:20 寺崎 巖 指揮 合奏/吉原正教 Trb
- 7月31日(木) 9:30~11:00 寺崎 巖 指揮 合奏/熊谷綾子 Perc/谷藤綾香 Tuba
- 9月8日(月) 14:50~16:15 熊谷綾子 Perc/佐々木 駿 Tp
- 9月24日(水) 14:50~16:15 寺崎 巖 指揮 合奏/熊谷綾子 Perc/谷藤綾香 Tuba/白旗 弘 Trb/佐々木 駿 Tp
- 10月11日(日) 8:30~11:00 学習発表会 寺崎 巖 Vn/熊谷綾子 Perc



**指導を受けた児童の感想**

パーカッション…詳しく指導してもらえるので上達できて嬉しい。チューバ…入ったばかりで、わからない事だらけだけど教えてもらえるとわかる。トロンボーン…とても楽しかった。おもしろかった。トランペット…指導を受けて良かった。もっと上手になりたい。

**先生からの感想・意見**

ゼロからのスタートだったので、ありがたかった。アンサンブルに向けてまたお願いしたい。指導する側としては、練習時間が取れない状況で、指導が定着しないので、何度も繰り返しの作業になってしまう。しかしながら、通常では定着できない技術も専門家の直接指導により、その場で明確に解決できる場合も多く、専門家派遣の意義があった。

**学校側から**

曲探しも難航、パーカッションは楽器が足りない、金管は技術が足りない。……などで苦慮しているとのこと。

生。太平洋側に面した東北の沿岸部は津波による未曾有の被害を受け、宮古市もまたその被災地の一部であった。岩手県演劇協会では、地震発生後すぐに加盟団体の安否確認を行った際に、宮古市の劇研麦の会の代表田代美津子さんが被災されたことを知る。幸い、田代さんとご家族、愛猫のミイちゃんは無事であったが、ミイちゃん以外の飼育猫たちは行方不明、ご自宅は半壊、経営していた印刷会社の工場は全壊、そしてその工場の隣にあった劇研麦の会の倉庫は跡形もなく消えた。いわて文化支援ネットワーク、岩手県演劇協会、盛岡演劇協会が一丸となり、何か支援できることはないかと話し合った結果、宮古に実家のある私が直接田代さんにお話しを伺うことになったのは、確かその年の夏だったと思う。その時、その年に行われる予定だった公演について聞いていいものかどうかわからず、はつきりと聞けずいた私に田代さんは明るくこうおっしゃった。「今年も予定通り公演は行うことになりました。誰もやめようって言わなかったんです。」

と公演場所はそけい幼稚園理事長である晴山さんのご厚意で、無料で貸していただけることも決まり、演目も「姉が泣いた」に確定した。そこで、我々ができることはなにかと申し出たところ、田代さんはなかなか教えてくださらなかったのだが、私は宮古の人間のシャイで遠慮深い市民性をよくわかつていたので、きつと遠慮なさっているに違いないと、かなりしつこく伺った。すると、何もかにも流されてしまったので、メイク道具が必要だとやつと教えてくださった。その年の公演に間に合うように、我々はメイク道具を手配し、また本番も何名かで観劇ツアーを組み、宮古に向かった。実はこの時、麦の会の皆さんが心配していたのが集客だった。果たして、皆さんが観に来てくださるか。それは私自身も正直なところ心配していたのだが、いざ会場に足を踏み入れたところ、会場は満員のお客でいっぱいだった。あの会場にいらした皆さんは求めていたのだと思う。笑いを、芝居を、震災前と変わらない日常の一部を。演劇は災害の前で無力な存在でしかない打ちのめされてきた自分にとつてその光景は非常に元気づけられるものだった。映画「幸福の黄色いハンカチ」のラストシーンみたい。風になびく黄色いハンカチの代わりに、無数の拍手と笑いが舞台を包み込んでいた。



あの光景から3年、劇研麦の会は一度も定期公演を休むことなく、今年もまた多くのお客様に恵まれつつ公演を終えた。どうしても変わっていつてしまうことに対して、変わらずにそこに存在し続けることの強さというのもあるのだなと思う。

さて、「アシストなう」に記事にするにあたり、田代さんからのお願いを一つ受けましたので未筆ではありますが記します。震災にも負けず、走り続けてきた劇研麦の会ですが、劇団員不足に悩んでおります。恥ずかしがり屋、照れ屋、もちろん初心者歓迎です。興味のある方は劇研麦の会(01993)63-3344(田代)まで。



## 参加者募集

### 「3.11文化復興フォーラム ～阪神大震災から20年、岩手の今後を考える～」

日時：平成27年3月11日(水) 18:30～20:30  
会場：もりおか町家物語館、浜藤ホール(盛岡市鉦屋町)  
参加費：無料

《第1部》18:30～19:00 「岩手県沿岸被災者及び内陸避難者の文化芸術活動における市民意識調査」報告  
報告者：坂田裕一(特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター理事長)

《第2部》19:00～20:30 パネルディスカッション「3.11文化復興によるこれからの10年を考える」

パネリスト：外岡秀俊さん(ジャーナリスト、作家)

寺崎 巖さん(音楽家、いわてフィルハーモニーオーケストラ代表)

福島史子さん(元神戸アートビレッジセンター職員、  
現宮古市民文化会館チーフプロデューサー)

坂口奈央さん(元岩手めんこいTVアナウンサー)

コーディネーター：坂田裕一(特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター)

申込み・問合せ：いわて文化支援ネットワーク(事業担当：打田内)

〒020-0827 盛岡市鉦屋町10-8 もりおか町家物語館内  
TEL: 019-654-2911 E-mail: machiya@iwate-arts.jp

## 編集後記

NPO法人いわてアートサポートセンターは、「もりおか町家物語館」「宮古市民文化会館」、2つの施設を指定管理者として運営しています。

昨年12月21日に再スタートした宮古市民文化会館は、沿岸被災地で被害を受けたホールの中でいち早い再開となりました。東日本大震災後、成人式等の式典はもとより多くの文化活動の場に苦慮されていた宮古市民皆さんの文化会館再会に寄せる期待に応えられるよう、また沿岸部の文化コーディネーターとして皆様のご相談に対応できる施設として開館しておりますので、どうぞご活用ください。

また、もりおか町家物語館は酒蔵をリニューアルした浜藤ホールで様々なイベントを開催しておりますので、こちらもご愛顧ください。



### いわて文化支援ネットワーク

〒020-0878 岩手県盛岡市肴町4-20永卯ビル3F  
NPO法人いわてアートサポートセンター内  
☎019-604-9020 FAX:019-604-9021  
E-mail:kaze@iwate-arts.jp  
http://ibsn.web.fc2.com/

●支援金振込先(振り込み手数料は負担願います) ご注意、ご協力  
ご支援、ご協力  
ありがとうございます。

■みずほ銀行 盛岡支店(普) 1190698\*  
■ゆうちょ銀行 店名【八三八】(普) 0808732\*  
※いずれも口座名:いわて文化支援ネットワーク

■岩手銀行 中ノ橋支店(普) 2044173  
口座名:いわてアートサポートセンター文化支援 代表 坂田裕一

現在の支援金総額 **9,787,224円**(平成27年1月20日現在)